

参 考 资 料

資料 1 「東京都防災会議地震部会」専門委員名簿

敬称略、専門委員は五十音順

部会長	平田 直	東京大学地震研究所教授
副部会長	中林一樹	明治大学大学院特任教授
専門委員	加藤孝明	東京大学生産技術研究所准教授
	佐竹健治	東京大学地震研究所教授
	久田嘉章	工学院大学教授
	翠川三郎	東京工業大学大学院教授
	安田 進	東京電機大学教授

資料 2 「東京都防災会議地震部会」審議経過

開催日・回数		検討事項	備考
H23.09.21	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 地震部会設置の経緯と実施体制 被害想定の見直しに関する方針 想定地震の設定について 	検討開始
H23.11.01	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 被害想定で設定する地震について 被害想定見直しの基本方針 被害想定項目における手法について 	
H23.12.26	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 地震動予測計算及び津波波高計算について 被害想定項目における手法について 	
H24.02.01	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 地震動予測計算及び津波波高計算について 被害想定項目に用いる手法について 	
H24.03.02	第5回	<ul style="list-style-type: none"> 地震動・津波に関する想定結果について 被害想定に用いる手法について 基本被害に関する想定結果等について 報告書の構成について 	
H24.03.26	第6回	<ul style="list-style-type: none"> 地震動・津波に関する想定結果について 被害想定結果について 報告書案について 	
H24.04.09	第7回	<ul style="list-style-type: none"> 被害想定結果について 報告書案について 	
H24.04.18	第8回	<ul style="list-style-type: none"> 報告書案について 	検討終了

参考文献

- 1) Sato, H., N. Hirata, K. Koketsu, D. Okaya, S. Abe, R. Kobayashi, M. Matsubara, T. Iwasaki, T. Ito, T. Ikawa, T. Kawanaka, K. Kasahara, and S. Harder (2005): Earthquake Source Fault Beneath Tokyo, Science, 309, no. 5733, 462-464.
- 2) 文部科学省研究開発局・東京大学地震研究所(2012): 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト①首都圏でのプレート構造調査、震源断層モデル等の構築等(平成23年度)成果報告書, 平成24年3月,
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/shuto/report/H23/>.
- 3) Ishida, M. (1992): Geometry and Relative Motion of the Philippine Sea Plate and Pacific Plate Beneath the Kanto-Tokai District, Japan, Journal of Geophysical Research, Vol.97, No.B1, 489-513.
- 4) 中央防災会議(2004): 「首都直下地震対策専門調査会」(第12回)地震ワーキンググループ報告書, 平成16年11月17日, <http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/shutochokka/12/shiryo2-1.pdf>.
- 5) 行谷佑一・佐竹健治・穴倉正展(2011): 南関東沿岸の地殻上下変動から推定した1703年元禄関東地震と1923年大正関東地震の断層モデル, (独)産業技術総合研究所活断層・地震研究センター 活断層・古地震研究報告, No.11, 107-120.
- 6) 地震調査研究推進本部地震調査委員会(2009): 「全国地震動予測地図 別冊2 震源断層を特定した地震動予測地図」, 平成21年7月21日, 352p., http://www.jishin.go.jp/main/chousa/09_yosokuchizu/index.htm.
- 7) 若松加寿江・松岡昌志(2011): 世界測地系に準拠した地形・地盤250mメッシュマップの構築, 日本地震工学会大会-2011梗概集, 84-85.
- 8) 東京都防災会議(2006): 「首都直下地震による東京の被害想定報告書」, 平成18年5月.
- 9) (社)日本道路協会(2002): 道路橋示方書・同解説 V 耐震設計編, 平成14年3月.
- 10) 安田 進・石田栄介・細川直行(2009): 液状化のハザードマップにおける作成方法の現状と今後のあり方, 土木学会地震工学論文集, 第30巻, 188-194.
- 11) 亀井祐聡、森本 徹、安田 進、清水喜久、小金丸健一、石田栄介(2002): 東京低地における沖積砂質土の粒度特性と細粒分が液状化強度に及ぼす影響、地盤工学論文報告集、vol.42、No.4、101-110.
- 12) 岩崎敏男、龍岡文夫、常田賢一、安田 進(1980): 地震時地盤液状化の程度の予測について、土と基礎、Vol.28、No.4、23-29.
- 13) 地震調査研究推進本部地震調査委員会(2012): 「長周期地震動予測地図」2012年試作版-南海地震(昭和型)の検討一, 平成24年1月13日, 51-57, http://www.jishin.go.jp/main/chousa/12_choshuki/index.htm.
- 14) 建築研究所
http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/topics/20110311/pdf/quickreport/0311quickreport_40.pdf
- 15) 久田嘉章「東京を襲った長周期地震動」(建築雑誌2011年5月号)
- 16) 気象庁「長周期地震動に関する情報のあり方検討会(第3回)」資料1
http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/tyoshuki_kentokai/kentokai3/siryoul.pdf